
ノール（M） 「『デオフェアリー・ノールと秘密の部屋』

スメル3 『ノルマル酪酸』」

一拍の間

ノール（M） 「わたしの名前はノール。どこにでもいる、普通のデオフェアリーなの！この世界から悪いにおいをなくすため、カルモア学園の学生になって、人間の世界を見守っているんだ」

SE…ノックの音。

SE…ガチャ！とドアが開く音。

エリカ 「おはようございます、お姉様！」

ノール(M) 「この、ノールのことを『お姉様』と呼ぶ騒がしい子は、後輩のエリカ。実はデオフェアリー候補生なんだけど、ノールと一緒にカルモア学園で消臭の任務についているんだよね」

ノール 「どやあ〜！」

エリカ 「今週はなんですか、お姉様？ (困惑)」

ノール 「今日は体操着ー！」

エリカ 「あ、体育の後だったんですね」

ノール 「そう。『駄目な人には見えない体操着』」

エリカ 「み、見えますよ、もちろん」

ノール 「今、このブルマが見えない人は、きっと駄目な人」

エリカ 「お姉さまのブルマ姿はご褒美ですから。見逃す人は
いませんよ、きっと」

ノール 「ご褒美って？」

エリカ 「一部の紳士の方々には、ご褒美だと思います」

ノール 「へ〜。『レディス&ジェントルメン』てヤツだ」

エリカ「想像すると、嫌な集団ですね」

ノール「でも、ご褒美だってひと達は『駄目な人』だから、

この体操着は 見えないんじゃない？」

エリカ「『ハリネズミのジレンマ』でしたっけ？」

一拍の間

ノール「そんなわけで」

エリカ「はい」

ノール「今日の消臭部の活動は……トレーニング」

エリカ「はい？」

ノール「消臭は1に体力、2に体力！」

エリカ「初耳ですよ」

ノール「つべこべ言わない！ さあ、ロードワーク行くよ！」

エリカ「ロードワーク？ というか、何かあったんですか？」

ノール「ボクシング漫画読んだ。合宿で、山道を走ってて

『これだ！』って思ったの」

エリカ「……ひよっとして、熊と闘ってませんでした？」

ノール「うん。その後、熊鍋食べてた」

エリカ「微妙に古いー！ やっぱり、お姉さま昭和説ーっ!!」

ノール「うるさーい!! さっさと行くダニー！」

SE..走る音(F.O.)

一拍の間

エリカ「も、もうだめ……」

ノール「だらしないなあ、もお」

エリカ「お、お姉さま……元気ですね、さすがです(息も絶え絶

え)

ノール「そんなことないよ。ノール、走ってないから」

エリカ「え？」

ノール「ノール、飛んでる。地面すれすれに」

エリカ「……それは、大変じゃないんですか？」

ノール「夢の力は使うけど、体力的に楽ちん」

エリカ「それじゃ意味ないじゃないですか！ 何のために

ロードワークしてるんですか!？」

ノール「もちろん、エリカを鍛えるため」

エリカ「要するに、嫌がらせですか？」

ノール「要すると、身も蓋もなくなっちゃうから、要さない

ほうが良いよ」

エリカ「否定しないってことは、そうなんですわね!？」

ノール、深呼吸。

ノール「運動の後は、空気が美味しいね」

エリカ「お姉さま、運動してませんよね!？」

ノール「……おや？」

エリカ「お姉さま、なんで運動してないのに汗臭いんですか？」

ノール「ノールじゃないよ!？」

エリカ「汗かきましたけど、わたしでもないですよ」

ノール「わかつてる。これは……悪臭だよ！」

エリカ「汗をかいたばかりじゃなくて……その手の本屋さんで、

そーゆー感じの紳士から漂う、あの独特の、すっぱい

汗臭さですね」

ノール「めったなこと言わない！ 夏コミの、ゆりかもめ車内の

ニオイとか、そのくらいにしようよ」

エリカ「いや、お姉様もずいぶんですよね」

ノール「汗の成分が微生物分解されて生成される悪臭成分……

どこかに、ノルマル酪酸があるはずだよ！」

一拍の間

ノリ「よくぞみやぶったな!!」

SE…それっぽい登場SE

ノール「だれ？」

エリカ「なんか、上から目線ですね」

ノリ「悪臭17人衆のひとり……『ノルマル酪酸のノリ』だ！」

一拍の間

エリカ「ノルマル酪酸!? デオアリーナのゲストが『酢酸』と

間違えまくっている、あの！」

ノール「なんの話？」

エリカ「さあ、消臭しましょう！」

ノール「聞こえないふりした、今？」

一拍の間

ノリ「世界を悪臭で満たすため、まずは学園内をすっぱい汗の
においで満たしてやる！」

エリカ「そんな……学校を、どこかの薄い本専門店や、

某・夏コミ会場みたいにするなんて……恐ろしい！」

ノール「ノールは、そんなエリカの発言が恐ろしいけどね」

エリカ「コスプレ用の男子更衣室が、ものすごいらしいですよ」

ノール「その話題を掘り下げない！」

ノリ「おのれ……好き勝手いいおって！」

ノール「好き勝手しようとしているのは、そっちでしょ！」

ノール「華麗に変身！ でおどあーっ!!」

SE・変身SE & BGM

ノリ「くっ……でたな！」

ノール「見た目はキュートに、中身は本気！デオフェアリー・

ノール！」

一拍の間

エリカ「いつもの格好ですねえ（不満げ）」

ノール「なに？なにか文句あるの？」

エリカ「いや、ブルマから変身するんだから、ここは空気を
読んでスク水とかが良かったです、お姉様」

ノール「そんな、マニアックな空気読めない！ だいたい、
まだ水着じゃ寒いって」

エリカ「その裸エプロンの下にスク水で良いじゃないですか」

ノール「だから、裸言うなー！ キヤミソールも着てるし、パンツ
もはいてる！」

エリカ「……なんか、スクール水着と、薄着度は変わらない
気がしませんか？」

ノール「まあ、ねえ……」

エリカ「そんなわけで、『スク水ノールお姉様』のイラストを
募集します！」

ノール「するなあ!! っていうか、いったいドコに向かって
喋ってるわけ!？」

一拍の間

ノリ「俺はアセトアルデヒドのヒドや硫化水素のリユウのようには行かないぜ！」

ノール「なんか、しぶとそうだよね」

エリカ「しみそうっていうか、洗濯してもとれなさそうと言うか」
ノリ「いくぞっ！ ……人体のニオイを、臭塗ッ!!」

SE…臭塗っぽいSE

エリカ「うわ！ これです、更衣室っ！」

ノール「更衣室いうなー!!」

エリカ「そういえば、デオアリーナの『ノルマル酪酸』のカードがあるじゃないですか」

ノール「わかんない人に説明。『デオアリーナ』ってノールたちが出る、消臭カードゲームがあるんだよ」

エリカ「フオローありがとうございます、おねえさま」

エリカ「あれが置ける場所の『人体』『犬小屋』『ぞうきん』って組み合わせは、考えてみるとすごいですよね」

ノール「でも、なんかそういう人って、いるよね？」

エリカ「お姉様こそ、危ない発言はやめてください!!」

ノリ「ふはははは！どうだ、シーシェパードが調査捕鯨妨害に使ったほどの威力を思い知ったか!？」

エリカ「あ！ ガラス瓶に薬品を入れてぶつけたアレって……

中身はノルマル酪酸だったんだ！」

ノール「なんという迷惑な！ エリカ、やっつけろ!!」

エリカ「え!?!この流れでも、わたしが行くんですか!？」

ノール「つべこべ言わない！ マイクロゲルで消臭してやれー!」

エリカ「あー、もー、わかりました!」

エリカ「でよ・でよどやー!!」

SE…デンプシーロールの炸裂音

ノリ「ぐはあ!?!」

エリカ「参ったか!?!」

ノール「こらーっ!! スプレー缶握りしめて、デンプシーロールで

殴り倒すの 禁止っ!!」

エリカ「うまく出来ました! 消臭剤マイクロゲルの威力は

やっぱり凄いですね!」

ノール「毎度のことだけど、スプレー関係ないよね!」

一拍の間

ノリ「ひどい……ひどすぎる……」

ノール「なんか、泣きが入ってるよ、エリカ?」

エリカ「ここで情け容赦なく、お姉様がトドメを!」

ノール「なんか引つかかるけど……いくぞー!」

一拍の間

ノール「デオ・デオドアーっ!!」

SE…デオ・デオドアーのSE

ノリ「うわー、だめだー!! (棒読み)」

SE…悪臭退散のSE

ノール「やったあっ!？」

エリカ「やりましたね、お姉さま」

ノール「うん…よし、においしない」

エリカ「やっど、さわやかな感じになりましたね」

ノール「めでたし、めでたしだ」

SE…数歩、歩く音

一拍の間

バスメル「おお！ ノールちゃんじゃないか!？」

ノール「うひゃあ!？」

バスメル「さつき部室に行ったら閉まっていたので、今日は

会えないと諦めていたけど……神様が僕に奇跡を

もたらしてくれたんだ!？」

一拍の間

ノール「完全に油断してた」

エリカ「そうですね、このイベントが省かれることはないですよ

ね……」

ノール（M）「そんなわけでえ……（やる気なさそうに）」

ノール（M）「この、いつも通り、外見だけは二枚目の、キラキ

ラお兄ちゃんは『バスメル王子』」

ノール（M）「いつも、ノールの苦手なクサイ台詞で告白してく

るんだけど……そういうの、苦手なんだよね」

バスメル「キミに出会って、キミの前にいる……僕は神様選ば

れた人間なのかもしれないな」

ノール「どこに文句言いに行けば良いんだろ。神社かな？

教会かな？」

エリカ「神様は、ひとに試練を与えるらしいですから」

ノール「ノールは妖精だから、試練とかいらないよ神様」

バスメル「どんな試練や痛みでも、キミという女神のものなら、

ボクはよろこんで受けるよ」

ノール「きいた、エリカ？ ほら、デンプシー！デンプシー！」

エリカ「いや、人間相手はまずいですよ、お姉さま」

ノール「大丈夫。広告設定はR18だから。少しくらいの

流血沙汰はOKだよ」

エリカ「いや、それで捕まるのはわたしですよね!？」

SE・携帯のバイブ音

バスメル「……ああ、すまない。行かなければいけないなくなって

しまったようだ」

ノール「そうですか、ではごきげんよう（棒読み）」

バスメル「では、またあおう！ ボクの女神よ!!」

SE…歩く音（F・O・）

ノール「どつと、疲れた〜……」

エリカ「とりあえず、帰りましょうかお姉さま」

ノール「よし！ 帰りも走って帰るよ！」

エリカ「えー!? もうやめましょうよ、お姉さま！」

ノール「ダメ！ 消臭は下半身のトレーニングが基本だよ！」

エリカ「あきららかに、ウソですよね!?!」

ノール「さあ、いくよ！」

エリカ「は〜い（嫌そげに）」

ノール「デオアリーナが、でるぞ♪（ファミコンウオーズの節で）」

エリカ「やっぱり、お姉さま昭和説（ぼそ）」

ノール「うるさいっ！」

SE..走る音（F・O・）

一拍の間

エリカ（N）「こうして、ノルマル酪酸は消臭された」

エリカ（N）「しかし、これで終わりではない」

エリカ（N）「汗の臭いはノルマル酪酸だけではない。悪臭のもとはいくらでも潜んでいる」

エリカ（N）「次に出てくるのは誰なのか？バスメル王子の台詞は一体どれだけのストックがあるのか？」

エリカ（N）「デオフェアリー・ノールの、消臭は終わらない…」

一拍の間

エリカ (N) 「漂う悪臭を、なんとする」

エリカ (N) 「芳香剤では、ごまかしきれぬ」

エリカ (N) 「換気扇でも、どうにもならぬ」

エリカ (N) 「マイクログルで、消臭する」

エリカ (N) 「また、来週も……」

ノール (N) 「『デオ・デオドアー!』」

おわり。